

関西支部

関西支部では本年度より支部長が三根久氏から西田俊夫氏に交代したのに伴い、事務局も支部長所属場所に置かれるようになった。この結果、いろいろの連絡が容易になり、従来よりも小回りのきくきめの細かい活動が行なわれている。とくに、支部活動の大きな柱である研究講演会については、経営工学会、関西経営情報科学協会、関西情報センターなどと密接に連絡し、共催の形で頻繁に行なわれるようになった。以下では昭和52年3月から12月末までの期間に関西支部で行なった活動を簡単に述べよう。

1. 総会記念講演 4月15日 (中央電気クラブ)
 - 三根久氏 (京大) : ORのORについて
 - 西田俊夫氏 (大阪大) : 財務諸表を中心とした長期概算経営計画
2. OR学会創立20周年記念講演会 11月11日 (大阪証券会館)
 - 川喜田二郎氏 (川喜田研究所) : 問題解決のプロセス
 - 山田稔氏 (ダイキン工業) : 会社における人間関係
3. 支部大会 9月28日 (関電ホール)
 - 横山保氏 (大阪大) : ヒューリスティック・アプローチ
 - 原子力発電に関する映画上映
 - パネル・ディスカッション : ORとIE
朝尾正氏 (田辺製薬), 加瀬滋男氏 (大阪府大), 福田龍二氏 (住友電工), 藤田彰久氏 (関西大)
パネル・ディスカッションの内容は現在事務局で整理中であり、次年度の支部総会で印刷物として配布の予定である。
4. OR研究講演会
 - (1) 6月10日 (大阪科学技術センター)
 - H. M. Markowitz 氏 (IBM) : 米国における最近の大型シミュレーション例と技術動向
 - (2) 8月26日 (関西情報センター)
 - 田畑吉雄氏 (大阪大) : 経営科学国際会議 (TIMS) を通じてみた最近のORの話題
 - (3) 10月20日 (京大工学部) 三根久氏担当主査
 - 中川覃夫氏 (名城大) : システムの信頼性と保全性

の解析手法

- パネル・ディスカッション : 省資源, 省エネルギー時代の信頼性・保全性
植草源三 (植草事務所), 越川清重 (松下電産), 児玉正憲 (名工大), 古東啓吾 (三菱電機), 高松俊朗 (大阪大), 村田忠 (島津製作所) の各氏
- (4) 11月18日 (阪大工学部)
 - C. C. Heyde 氏 (オーストラリア CSIRO) : Some Case Histories in Stochastic Modelling
オーストラリアに生息している様々な鳥の数を推定するためのモデルとシミュレーション結果とが示された。
 - (5) 12月23日 (住友電工本社) : 西田光男氏担当主査
 - 山品元氏 (京大) : 生産ラインにおけるバッファの役割りについて
生産ラインをトランスファ・ラインに限定し, バッファ設置を計画するときのステージの配列順序, 位置と容量の決定方法について, 研究の現状をサーベイしたもの
 - 上田昇氏 (住友電工) : ある材料性能の定量的評価法の確立について
電気接点の溶着性能評価法について, 現場で生じた問題から出発し, 少数のデータに対して順序統計量として処理し成功した例を述べている。
 5. 月例講演会 8月10日 (関西情報センター)
 - L. A. Johnson 氏 (Georgia 工大) : Operations Research Methods for Production Planning
 - D. C. Montgomery 氏 (Georgia 工大) : Statistical Methods for Short-Term Forecasting
毎年大阪で開催されている経営科学コロキウムに出席された外国人2人の講演で, 生産計画と大規模数理計画法との関係および自己帰帰モデルを用いて予測を行なう方法が通訳付きで述べられた。
以上のように本年度はコンスタントに平均月1回は会合がもたれており, 例年年度末に集中する研究会の開催が分散するようになった。(西田俊夫, 田畑吉雄記)

論文誌・機関誌の「投稿案内」ができました!

投稿規程, 執筆要領, 清打ちの手引等の諸規程を1冊にまとめた「投稿案内」ができました。現在論文を執筆中の方, これから投稿をされる方は必ず「投稿規程」をご参照ください。「投稿規程」は事務局に準備されております。

なお機関誌にご投稿の方も, なるべく執筆規程に従ってください。